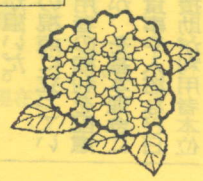
会報　「石川守る会」
№6　1998・6・20
石川県重症心身障害児(者)を守る会
会　長　益子佳苗



一気に増えた　“新入会員”

昨年から大切な活動と位置付けていた新しい会員の拡大が、一気に進みました。「石川守る会」副会長の越坂さんが医王病院の親の会の方々と、何度も会の主旨や活動について話す機会を持ち、疑問点も出してもらいながら地道に活動を続けてきた成果です。また、昨年１１月に行なった療育相談を受けられた方も入会されました。私達の重症児をまもる様々な活動が家族の方々に受け入れられ始めてきているようです。これからも新しく仲間になった会員の意見も聞きながら運動を進めていきたいと思います。

新入会員の紹介

全国守る会・石川守る会　正会員

山岸徹　紺井実　堂本禎三　千田治雄　桑本アヤ子　坂本敏雄
野田史洋　山田清美　高畠真知子　河合松太郎　恒田勝久　城悦子
葛城（川場）　松田美枝　西森淳子　中村（山本）　山田美智子
南重行　村井藤一　田川大　石川信　柏木（吉原）　増村茂樹

石川守る会　賛助会員

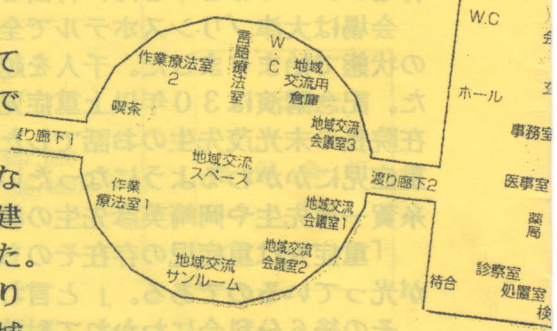
中野麗子

現在「全国守る会」の正会員３９名（在宅１３、施設２６）　賛助会員８名になりました。「全国重症児を守る会　石川支部」の結成に向けて、会員のさらなる拡大と活動内容の充実にむけて今後とも役員一同気を引き締めて努力するつもりです　みなさんのご協力もお願いいたします。

施設見学に行ってきました

５月２６日明和養護学校の訪問学級の遠足をかねて４月に小松で開所した石川県で５番目の重症児施設である「小松療育園」の見学に行ってきました。

新しい施設だけあってさすがにきれいできめ細かな配慮が随所に見られました。鉄筋コンクリート平屋建で居室は２人部屋が７室、４人部屋が９室ありました。また、理学療法室、レントゲン室、ＣＴ室などもありお医者さんが常駐しているとのことで安心です。地域交流スペースがゆったり確保してあり、床も板張りで



利用案内
重症心身障害児施設
小松療育園
TEL0761-46-1306(代)

冬は床暖房がはいるそうです。居室も“やまびこ通り”“せせらぎ通り”などと名付けられていて和室や洋室など入所者の実態や好みに応じられるようになっていました。重症児の入所のほかに通園サービスや地域療育支援サービスやショートスティなどの事業もしているとのことです。

お母さん達は「明るくてきれいでいいね」「お医者さんがいつもいてくれるのは安心だね」「ショートスティの部屋に吸引や酸素のバルブがあるのもいいね」などの感想が出されていました。

「石川守る会」今年度の活動計画

・行政担当者との懇談 —— アンケート結果をもとにして

・巡回療育相談の継続　　七尾、加賀、金沢

・親子の集い

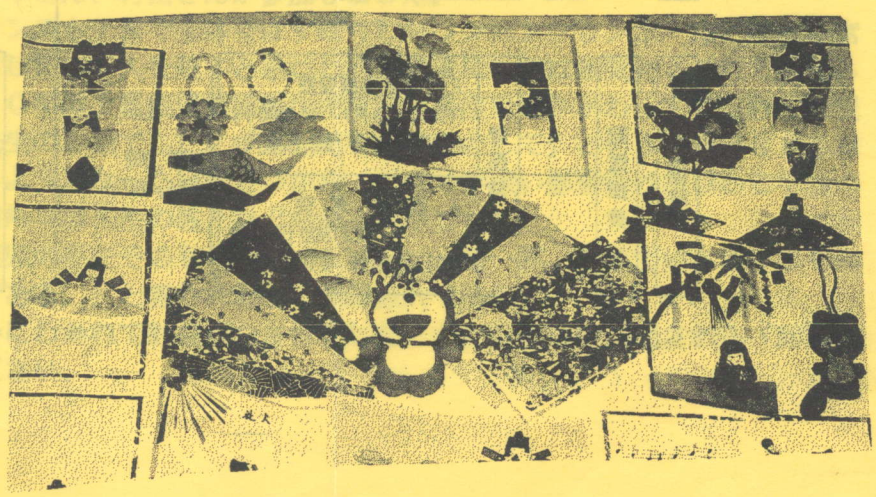
・富山県レスパイトサービス事業見学

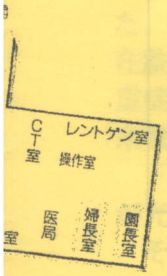
・「重症心身障害児（者）を守る会」全国大会参加
　６月２０日～２１日　　滋賀県大津市

素敵なプレゼントが届きました

昨年１２月にみなさまのお手元へクリスマスカードといっしょにサンタさんから紙人形と四季折々の素敵なちぎり絵のしおりが届けられました。そのサンタさんは会員の藪下さんでしたが、それから６ケ月、筋ジストロフィー症のお身体にもかかわらず、少しでもみなさんのお役に立ちたいとバースディカードや小さな小物などを沢山作って送ってくださいました。楽しみに待っていて下さい。藪下さんの暖かい真心に支えられ、事務局でも精一杯会員のみなさまに喜んで頂けるよう努力させて頂きたいと思っています。

事務局より





資料　重症児施設入所の場合の費用とその負担方法

（平成10年4月現在）

［施設入所の費用（1人月額）］

地方自治体補助金
（自治体により異なる）

民間施設のみ

〔負担の方法〕

児童福祉法 ― 措置費

- 看護代替要員費　160円
- スプリンクラー管理費　310円
- 教育費・期末一時扶助費等 ※
- 療育訓練費　420円
- 日用品費　18,670円
- 重症児指導費(年度別推移11頁参照)　235,840円
- 入院時食事費（自己負担分）（実額）　22,800円
- 高額療養費　63,600円

民間 341,800円

国立 341,640円

家庭負担金（徴収金）
本人の年齢や、所得により負担額が異なる

地方自治体負担 50%

約80万円

国の負担 50%

健康保険法 ― 総医療費

健保請求

- 入院時食事療養費（日額1,140円）　34,800円（自己負担分　22,800円）
- 入院医療費　422,800円以上（自己負担分　63,600円）

457,600（86,400）

健保負担

障害者施設に評価基準

73項目を自己点検 第三者機関で監視も

障害者の権利や施設サービスを向上させるため、都は四日までに、七十三項目のサービス評価基準を策定した。施設運営を監視する第三者機関「施設オンブズマン」も設置されることになり、来月からモデル施設に指定された十一の施設で活動を始める。障害者施設の運営は閉鎖的になりがち。「評価基準」に基づいたオンブズマン活動などで、「どの施設に入っても同じようなサービスを受けられるようになれば」と、都では期待している。

評価基準の作成にあたったのは、弁護士や入所施設関係者、保護者ら十一人で構成する「障害者入所施設サービス評価委員会」で、施設ごとにまちまちだったサービス内容を客観的に評価するのが狙いだ。

利用者の視点に立っているか、利用者の権利を配慮しているか、を基本理念に据え、①食事や入浴など日常生活の援助が利用者本位で行われているか②介護やリハビリなど地域社会での自立生活に向けた支援ができているか――など六分野、七十三項目を四段階で採点する。

この基準に基づいて、来月には、都が補助金を出している都内外の百二十の入所施設で自己採点が始まることになっている。採点内容は都に報告し、都では、改善点を指導する。

一方、「施設オンブズマン」は、閉鎖的になりがちな施設の運営を第三者機関がチェックする制度。メンバーになるのは、弁護士や社会福祉活動に実績のある人たちで、各施設ごとに設置される。利用者の権利が評価基準通り守られているかなど、施設運営を点検するとともに、入所者の苦情を聞いて利用者の権利擁護活動を行うことになっている。

差し当たって、身体障害者施設「日野療護園」（日野市）、知的障害者施設「八王子平和の家」（八王子市）など計十一のモデル施設で活動を開始するが、最終的には全施設にオンブズマンが置かれる。

読売新聞より 6/5

大津で全国大会開かれる

6月20日～21日大津で「第３５回重症心身障害児（者）を守る全国大会」が開催されました。石川からは副会長の山本さん、越坂さん、理事の石川先生、西田、石川療育センターのわき本さん、村田さんが参加しました。

会場は大津プリンスホテルで全体会はすばらしいコンベンションホールにほぼ満席の状態で始まりました。千人を越すと思われる参加者に会場は熱気充ち溢れていました。記念講演は３０年以上重症児施設旭川児童院で重症児にかかわってこられて、現在院長の末光茂先生のお話でした。「重症児をわが光として」という演題で３０年前重症児にかかわるようになったいきさつから、ご自分が深い影響受けたびわこ学園の糸賀一男先生や岡崎英彦先生の教えなども話されました。

「重症児は重症児の存在そのもので光っている」「精一杯、生きている姿そのものが光っているのである。」と言われたことが印象的でした。

その後６分科会にわかれて討論がなされました。くわしくは後日出される「両親の集い」をご覧ください。